

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

芸術

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	音楽Ⅰ	2	普通・理数	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	MUSA1（教育芸術社）、
教科書以外の教材	なし

目 標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
学習のねらい	1 歌唱 曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現している。 基本的な発声法を習得し、歌うことの楽しさを感じ取る。 合唱活動における協調的態度を育成する。 様々な国や地域の歌に親しむ。 2 器楽 いろいろな楽器を体験し、視奏力を伸ばすとともに、曲の構成及び曲想の把握と奏法や表現の工夫を図る。 リコーダーの基本奏法の拡充を図る。 複合アンサンブルによってアンサンブルの広がりを感じ取る 3 創作 いろいろな音階による旋律の創作や、旋律に対する和音の工夫、いろいろな音素材による即興的表現の体験をする。楽譜に対する基礎知識の充実。 4 鑑賞 さまざまな鑑賞を通して、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲を成立させた歴史的背景を学ばせる。 我が国の伝統音楽や、世界の諸民族の音楽の種類と特徴について学習する。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 観点別到達度、演奏の完成度の判定、鑑賞能力判定、自己評価（自己計画性）の4つのポイントを総合して評価する。 ○ 演奏に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からの アドバイス	・音や音楽に対する興味や関心を日頃からもち、意欲的に表現しようとするのが大切です。 ・様々な音楽に意欲的にふれることで今まで未知であった音楽に対する発見があり、嗜好する音楽の視野を広げるきっかけができます。どんな分野の音楽も積極的に取り組みましょう。 ・作品として形に残らないものですが、だからこそ発表までの過程が大切であり、それを発表することで自信や集中力を身に付けて欲しいと思います。 ・周りの仲間の個性を尊重し合い、協力しあいながら日々の授業に取り組んで下さい。 ・音楽の基礎理論や楽器などに対する基礎知識の充実により、音楽の楽しみは更に深まります。音楽をより深く知るために、しっかりと基礎を授業で学んで下さい。

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	校歌・発声練習 Ave Maria	4	自校の校歌の歌詞を良く味わい、のびのびと元気に歌唱する。 正しい発声を身につける。
	5	心の歌 ありがとう、少年時代、花 見上げてごらん夜の星を 易しい楽典	6	平易な二部合唱を含む歌唱活動に意欲的に取り組む。 それぞれの音楽の曲想を感じ取り、表現方法を工夫する。 中学での復習を中心に、表現活動で頻出する表現記号や強弱記号について理解する。
	6,7	イタリア語の歌を歌おう ‘O sole mio Caro mio ben	7	言葉の意味や歌詞が表す情景や心情と音楽との関わりを感じ取る。自分なりのイメージをもって独唱にふさわしい表現を追求する。
			6	ギターの基本的奏法やコードを習得する。
	9	ギターの基礎・応用練習①	2	独唱や合唱曲を鑑賞し、自国の音楽の独創性や美しさを味わい、各パートの役割を理解しながら曲想にあった表現方法を工夫する。
	10	青春を歌う 涙そうそう、空も飛べるはず 島唄	14	自分の心に残る演奏を作り上げる。
	11	ギターの基礎・応用練習 クラシック奏法「ロマンス」 弾き語り（自由課題）	16	
	後	日本の歌曲 日本の四季等	4	卒業式で1，2年生音楽選択者全員による合唱を行う。 卒業生の心に残る音楽を工夫する。
		卒業式に向けて 卒業生を送る歌	12	我が国の伝統音楽を鑑賞し、その民族性や美しさを味わう。 自国の音楽に対する誇りを培う。
		日本の音楽 箏曲・尺八・三味線	5	
		発表 卒業生を送る歌	2	
		総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	美術 I	2	普通・理数	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	高校生の美術 I（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目 標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
学習のねらい	1 木炭静物素描・静物着彩画・鑑賞 木炭の特性と基本的な技法を学び、形や光と影、空間をとらえる。アクリル絵の具の特性と基本的な技法を学び、意欲的にいろいろな表現方法を試みる。完成に向けて自分の表現を受け止めながら制作を進める。 お互いの作品を鑑賞しあい、よいところを見つけることでそれぞれの個性を認めることができるようにする。 2 人物クロッキー、デッサン、自画像着彩画・鑑賞 木炭やコンテでクロッキーやデッサンを楽しみ、人物画への抵抗を取り除く。似ることの意味や方法を知る。人物画は似せること以外に造形的魅力の表現が大切であること気づくようにする。固有色にとどまらず、主観的な色彩で主体的に着彩を楽しむようにする。 3 デザイン・鑑賞 造形と機能の関わりを考え、ポスターをデザインする。 グラフィックソフトの基礎を学習し、ポスターを制作する。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 制作の段階においての観点別到達度、作品の完成度の判定、感想文等による鑑賞能力判定の3つのポイントを総合して評価する。 ○ 作品に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からの アドバイス	・表現する技能を身につけることも大切ですが、絵を描くことが苦手な人でも芸術に対する興味や関心を持って、芸術作品を楽しめるような気持ちを育てることが大切です。 ・表現することは自分を表すことであり、自分を表すためには自分自身を見つめることが必要です。今の自分を受け入れて、よりよくしていこうという気持ちが表現につながります。 ・自分の個性を大切にすることと同様に、友達の個性や個性的な表現を大切にしましょう。 ・表現することの楽しさと難しさとを知り、芸術のよさを味わってもらいたいです。
年 間 授 業 計 画 表	

学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	木炭による幾何形態デッサン ・モチーフをよく観察し、素直表現 ・光と陰を木炭で表現 ・基本的な形態の表現	6	・B4画用紙、木炭、練りゴム、布 ・光の順光と反射光に気づく。 ・木炭や布の使い方を知る。 ・修正点をを探索することで描き進める。
	5	木炭による静物デッサン ・構図の重要性 ・静物間の関係 ・色彩の明度化 ・質感の表現	6	・画面の上下左右の切り方による効果に気づく。 ・明度差で色彩の違いを表現する。 ・ハイライトの形や光の反射の様子で質感の違いを表現する。
	6	静物画 ・アクリル絵の具の特性や扱い方 ・画面の骨組みとしての構図 ・形の組み合わせや色彩、タッチ等の造形要素 ・制作中の気持ちの有り様	16	・アクリル絵の具一式、8号キャンバス イーゼル、水入れ、ティッシュペーパー ・画材の特性を知って修正方法を理解する。 ・画面の中のモチーフの大きさや組み合わせ、バランスなど考慮し、画面への取り入れ方吟味する。 ・単色の絵の具を使ったデッサンから描き始める。 ・混色を避け重色で彩度の低下を防ぐ。
	9	静物画<鑑賞> ・相互鑑賞	4	・言葉や文章にして表現する。 ・思いどおりにできたところもできなかったところも肯定的に受け入れるようにする。
	10	人物画 ・人物クロッキー 細部にこだわらず体全体の動きや比例に着目 ・人物デッサン 似ることよりも頭部の造形的な魅力 ・自画像デッサン 各部のレイアウトの調整	4	・スケッチブック、コンテ ・体の重心や各部の基本的なプロポーシオンを知る。 ・よいポーズを考える。
	11	・自画像着彩画 自分の顔が持つ造形的な魅力の表現	4	・顔が似ることの意味を考え、似なくてもよい事に気づく。 ・顔が似る要素を考え、必要なら参考にする。 ・スケッチブック、木炭 ・輪郭線より光と影を手がかりに描き進める。
後期	12	人物画、デッサン、クロッキー<鑑賞> ・相互鑑賞	16	・アクリル絵の具一式、8号キャンバス イーゼル、水入れ、ティッシュペーパー ・描かれた画面の中からも面白い効果を見つけだし、生かすようにする。 ・背景を空間として捉え、人物と一体感ができるようにする。
	1	ポスターの作成（オープンスクール） ・コンピュータを使用して画像の加工や編集 ・A I D M Aの定理 ・コンピュータを使ってオープンスクールのポスター作成 ポスター<鑑賞> ・相互鑑賞	4	・言葉や文章にして表現する。 ・似ていることよりも表現された造形的魅力に着目する。
	2		10	・ノートパソコン、校舎内外・行事等の写真データ、印刷用紙 ・画像加工ソフト「フォトショップエレメンツ」の基本的な使い方を知り、画像の加工や編集ができる。 ・ポスターの機能を確認する。 ・造形要素を吟味して効果的なポスターに仕上げる。 ・言葉や文章で表現する。
総 時 間 数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	書道Ⅰ	2	普通・理数	1
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	書Ⅰ（光村図書）
教科書以外の教材	なし

目 標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
学習のねらい	1 「 漢字の書 」 ・漢字の成立と変遷について理解する。 ・楷書の特徴やその美について理解し、その書風の違いについて鑑賞する。 ・楷書の基本的な用筆・運筆法を古典の臨書を通じて身に付け、さらに多様な表現力を養う。 ・行書の特徴やその美について理解し、鑑賞する。 ・行書の基本的な用筆・運筆法を古典の臨書を通じて身に付け、さらに多様な表現力を養う。 ・落款の意味と役割について理解する。 2 「 仮名の書 」 ・仮名の成立や変遷について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆法を身に付ける。 ・古筆の流麗美について理解し、鑑賞する。 ・古筆の臨書を通して、さらに多様な表現力を養う。 3 「 漢字仮名交じりの書 」 ・漢字と仮名の調和を図る技能を身に付ける。 ・創作の手順を理解し、自己の意図に基づく表現の工夫をする。 ・暮らしの中の書について考え、その目的・用途に応じた表現ができる。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、「書への関心・意欲・態度」、「書表現の構想と工夫」、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」の4観点です。 ○ 書道作品集（学習プリント・作品・レポート等）、評価カード、授業態度等により総合的に評価します。 ○ 提出期限までに、書道作品集を必ず提出すること。
先生からの アドバイス	・書に興味・関心を持ち、意欲的に授業に参加することが大切です。 ・毎時間書道用具、筆記用具等忘れ物のないように準備しましょう。 ・規範となる優れた古典や、近現代に至るさまざまな名筆の技法や美にふれ、自分の書の表現に生かせるようにしましょう。 ・「書は人なり」自らの感性で美しいと感じ、楽しいと思えるような表現方法が発見できるよう、書に対する視野を広げていきましょう。 ・希望者は、コンクールに出品することができます。積極的に取り組んでみましょう。

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	○はじめに 書写から書道へ 用具・用材 漢字の成立と変遷 篆刻	2	「書は人なり」書の表現の多様性を理解し、意欲的に授業に臨みましょう。
	5	○漢字の書 楷書の特徴とその美 楷書の基本 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 牛軋像造記	6	印刀・印材の扱い方に気を付け、姓名印を完成させましょう。
	6		20	
	7			
後期	9	行書の特徴とその美 行書の基本 蘭亭序	20	楷書の基本的な表現技法をしっかりと学びましょう。 古典の特徴を理解し、それぞれの字形や用筆・運筆法を習得しましょう。 落款の意味と役割について理解し、自己作品に押印してみましょう。
	10	風信帖 学習した古典を生かした創作		今までに学習した、古典の特徴をしっかりと捉え、自分のイメージする表現につながるるように工夫しましょう。
	11	○仮名の書 仮名の成立と変遷 仮名の基本 いろは歌 高野切第三種 学習した古筆を生かした創作	16	書道字典なども活用して、自己のイメージする表現につながるように工夫しましょう。
	12			
	1	○漢字仮名交じりの書 題材の選定 構成・制作意図	14	仮名の成立や変遷に関心を持ち、楽しんで仮名の学習を進めましょう。 仮名の用筆・運筆法を習得するためは、姿勢・執筆法が大切です。常に心がけましょう。 古筆を通じて、日本の伝統的な美について理解しましょう。
	2	暮らしの中の書		
総 時 間 数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	音楽Ⅱ	3	普通・理数	2
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	MUSA2（教育芸術社）
教科書以外の教材	なし

目 標	芸術の幅広い活動を通して、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、進路決定の一助とする。
学習のねらい	1 歌唱 ソルフェージュ力を高めるために、基礎的な発声を重視する。 2 器楽 読譜能力を高めるために、楽器演奏（ピアノ等）を初見で行い、読譜に慣れる。 3 創作 いろいろな音階による旋律の創作や、旋律に対する和音の工夫、いろいろな音素材による即興的表現の体験をする。楽譜に対する基礎知識の充実。 4 鑑賞 さまざまな鑑賞を通して、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲を成立させた歴史的背景を学ばせる。 我が国の伝統音楽や、世界の諸民族の音楽の種類と特徴について学習する。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 観点別到達度、演奏の完成度の判定、鑑賞能力判定、自己評価（自己計画性）の4つのポイントを総合して評価する。 ○ 演奏に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からのアドバイス	・進路希望実現に向けて、ソルフェージュ力はむろん、楽典など学習をする内容はたくさんあります。こつこつ努力していかなければ能力はついてきません。自分の得意分野だけではなく、不得意とする内容を時間をかけて学習することが一番の近道です。

年間授業計画表				
学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	呼吸・発声	10	様々な歌唱の可能性を広げるために、正しい呼吸と発声方法を身につける。
	5	ソルフェージュ 新曲視唱・初見視奏・伴奏付け コールユーブンゲン 聴音	12	基本的な唱法及び奏法を身につけ、正確な音感を鍛える。 楽譜の正しい書き取りを身につける。細かい表現まで聞き取る力を養う。 楽譜から読みとれる音楽の曲想を感じ取り、表現方法を工夫する。
	6,7	楽典	12	表現記号や強弱記号について理解する。 音程・音階、関係調等について理解する。
期		芸術歌曲 Calo mio ben,（イタリア歌曲） IchLiebe dich（ドイツ歌曲）	10	曲想や言語の語感を感じ取り、意味も理解しながら表現豊に歌唱する。 各国の歌曲の歌い方の特徴を理解する。
	9	ヴァイオリンの基礎・応用練習	12	ヴァイオリンの基本的奏法を習得し、弦楽器の知識を広げる。 曲にあった奏法を工夫して簡易な曲を一曲仕上げる。。
	10	舞台音楽・歌劇 オペラ・ハイライト	8	意欲的に聴取し、それぞれの旋律の美しさや曲想の特徴を感じ取る。
後		日本の歌曲 かやの木山	14	自国の音楽の独創性や美しさを味わう。 日本語の発声法について学び、言葉の美しさを味わいながら表現豊かに歌唱する。
	11	この道		
	12	楽典	10	移調・転調など高度な音楽知識を理解する。
期	1	ソルフェージュ	10	ソルフェージュは前期の継続
	2	合唱の楽しみ 未来・卒業生を送る歌	11	自主的な歌唱活動を行い、個々・グループで美しく表現するための工夫をする。 卒業生の心に残る音楽を工夫する。
	3	日本の音楽 箏曲・尺八・三味線	6	我が国の伝統音楽を鑑賞し、その民族性や美しさを味わう。
		発表 （以上、便宜上時系列にしているが、生徒の進路意識などに併せて通年行うものや時期を変えて行う単元もある）	3	琴、尺八の体験をし、基本的奏法を習得する。 自国の音楽に対する誇りを培う。 自分の心に残る演奏を作り上げる。 卒業式で1，2年生音楽選択者全員による合唱を行う。
		総時間数	117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	美術Ⅱ	3	普通	2
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	高校美術2（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目 標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
学習のねらい	1 絵画表現・鑑賞 美術Ⅰで学んだ絵画表現の基本をもとに、より楽しく発展的に制作できるようにするために、1年をかけてF30号（またはB1パネル）の制作をさせる。年度末の展覧会での発表を目標に、粘り強く制作する態度を見につけさせる。 2 素描初歩 表現・鑑賞 素描の基礎的知識・技術を身につける。卓上静物や石膏を鉛筆で描写し、形態の正確な把握力、素材・質感の表現力、空間に対する意識を養う。 木炭、鉛筆の使い方、構図の取り方など、素描の初歩から始めるために、最初は出来上がった作品を模倣し、やがて独力でモチーフを組み描写できるようになることを目指す。基礎が身についた生徒から、次の基礎の段階へ進ませる。 3 素描基礎 表現・鑑賞 素描初歩からさらに発展させ、基礎的な力を定着させる。石膏デッサンを中心に、立体の描写力を身につける。一定時間内に作品を完成させることができるようにする。 美術系大学進学希望者は、石膏デッサンを中心として制作する。大学受験のための素描力を身につけるための基礎を養う。鉛筆、木炭以外の画材を使った素描も体験することで、絵画・彫刻・デザインといった専攻の適応力をはかる。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 絵画、素描のどちらを選択するかについては進学先を含めた本人の意思で決定する。絵画は関心・意欲・態度に評価の重点を置き、素描は表現の技能に重みを持たせる。素描初歩と基礎では、初歩の段階が十分に習得できた段階で発展させるため、評価にも若干段階をつける。
先生からのアドバイス	・美術Ⅱでは、常に目的意識を持って授業にのぞむことが大切です。美術に興味を持って、描くことの楽しさを味わいたいという人は絵画表現・鑑賞を、美術系の学校に進学したいと希望する人は素描を選択してください。 ・素描の中では習熟度別に初歩と基礎に分かれています。初歩から基礎に進むためには、授業で出された課題を提出し、作品の枚数を重ねることが必要です。意欲と熱意を持って制作にのぞみましょう。 ・自分の目的に応じて絵画と素描を選択できますが、授業を受けてみて進学の意志に変更があったときには、すぐに先生に相談しましょう。

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	1 絵画表現 ・学校周辺の風景から、自然と生活感のある場所を探す。	45	・日頃から、自然あふれる美しい風景を気にとめる心を大切にし、描きたいという気持ちを持とう。 ・大作に取り組むことで、絵画表現の難しさと楽しさを味わおう。
	5	・写真をもとにF30号（またはB1パネル）に鉛筆でデッサンし、画面を大きくしめるところから着彩していく。		
	6	2 素描初歩 表現 ・生徒が本来持っている描写力をはかるため、前期期間をかけて石膏像を鉛筆でデッサンする。		
	7	・素描の難しさと大切さを知る。		
	8	3 素描基礎 表現 ・石膏像を5枚デッサンする。構図の取り方、形態の正確な把握、鉛筆のトーンの変化による立体感の表現方法を学ぶ。		
	9			
後 期	10	1 絵画表現 ・1学期から取り組んでいるF30号絵画の制作を継続する。全体のバランスを考えて着彩し、躍動感のあるダイナミックな表現を楽しむことができる。	45	・限られた時間内に、準備と片付けを手際よく進め、少しでも多く制作できるようになろう。 ・失敗をおそれず、混色を楽しみながら大胆に色を乗せることができるようになるろう。 ・日頃生活の中で見慣れている生活用品でも、描写しようとするとなかなかうまくいかない。ものを見つめる観察力を磨き、形態や質感に興味を持とう。 ・できるだけ作品の枚数を重ね、経験を積むことでデッサンに対する姿勢を身につけよう。 ・鉛筆の使い方に慣れ、鉛筆の種類によるトーンの変化が使い分けられるようになるろう。
	11	2 素描初歩 表現 ・前期の経験をもとに、卓上にモチーフを構成して鉛筆でデッサンする。 ・完成した作品例を見ながら、最初は模倣から始め、構図の取り方や鉛筆によるトーンの付け方を学ぶ。		
	12	・出来るだけたくさんの作品を完成させ、作品例を見ずに自分で描写できるようになる。 3 素描基礎 表現 ・前期に学んだ石膏デッサンの基礎をもとに、様々な形態や質感を持つ静物モチーフを、鉛筆で描写する。 ・木炭を使った石膏デッサンをすることで、木炭独特のトーンの変化や立体把握の方法を学び、技法の幅を広げることで素描の基礎を固める。 ・どんなモチーフにも臆せず描写する意欲をはぐくむ。		
後 期	1	1 絵画表現 ・作品の持っている雰囲気大切に、細部描写をすすめ、完成させる。 鑑賞 作品を展示し、お互いの作品について批評する。	27	・自分の作品を客観的にながめて、よりよい作品に仕上がるために最後まで工夫する姿勢で制作しよう。 ・大作を仕上げた喜びとともに、友達の作品を鑑賞することで、芸術創作活動の喜びを体験しよう。
	2	2 素描初歩 表現・鑑賞 ・自分の素描の技術を確認し、デッサンの初歩的な考え方や姿勢に間違いがないかを考えて制作を進めるとともに、友達の作品を批評しあう。		
		3 素描基礎 表現・鑑賞 ・鉛筆と木炭の画材の特性を十分理解し、それぞれにあったトーンの美しさが作品に表現することができる。 ・作品を展示し、批評しあう。		
総時間数			117	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次
美術	素描		2	普通	3
履修形態		授業形態	指導者名		
選択		一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	高校美術3（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目 標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
学習のねらい	1 絵画表現・石膏素描基礎 石膏像を鉛筆や木炭で限られた時間内で完成させる技術を養う。どんな石膏像でもあらゆる角度、光の条件の下で、正確な形の描写と空間表現が可能にする力を身につける。 習熟度に応じて題材を設定し、着実な技術力の向上をめざす。 2 絵画表現・静物素描基礎 様々なモチーフを、限られた時間の中でデッサンする力を身につける。B3版の画用紙やケント紙、木炭紙など、あらゆる紙に対応できる技術力と描写力を養成する。 また自分で描きたいテーマを決めてモチーフを設定し、自分の個性に応じた水準の高い作品を完成させることができる。 3 絵画表現・構成素描 モチーフを自分で自由に設定し、与えられたテーマを組み合わせで想定デッサンできる応用力を養う。進学に対応できる高度な技術力を身につける。 自画像をモチーフに、表現したいテーマに沿って他のモチーフと構成し、表現力の高い自画像の大作を制作する。表現したいテーマがはっきりと画面で主張できるように、作者の内面性を追求した密度の高い作品に仕上げる。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 自分の技術のレベルにあわせてテーマを設定し、完成された作品を基に次の課題を設定していく。進学に対応できる技術力を養うことを第一の目的とし、作品とともに取り組みの姿勢について観点評価に加える。

先生からの アドバイス	・素描は、美術系大学への進学を目的とし、高い技術力を養うための講座です。これまでの技術力をベースに向上心を持って取り組みましょう。 ・それぞれの習熟度に応じてテーマを設定します。一つ一つの制作を大切にし、批評された言葉を次の制作に生かす気持ちが大切です。 ・絵画やデザイン、彫刻などの選考に応じてテーマを設定し、受験に対応します。
----------------	---

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	1 絵画表現・石膏素描基礎	1 8	絵画表現においてのデッサンの重要性に気付き、観察力や集中力、粘り強さが必要であることを知る。デッサンの基礎を固めたうえで、鉛筆や木炭のトーンの違いによる立体表現を学び、その奥深さを知る
	5	石膏像を鉛筆でデッサンする。用具の使用方法を理解し、初歩的な考え方と技法を学ぶ。基本となる造形要素を理解し、表現方法を学ぶ。		
	6	2 絵画表現・静物素描基礎	2 1	視覚的な情報をできるだけ正確に伝達するためのデッサンの必要性を知りそのための初歩的な考え方と、試行錯誤しながら鉛筆でトーンをつける技術を学ぶ。 二点透視方の考え方や消失点の意識を持つことで、画面における空間の感覚を身につけ、デッサンにおける立体表現に遠近法がいかに重要であるかを知る。
	7	鉛筆で卓上にあるモチーフをデッサンする。形・質感・色などの特徴を正確に捉え表現する。幾何形体を遠近法を用いて表現する方法を学ぶ。		
	8	鉛筆で静物モチーフをデッサンする。遠近法を用いた形体の捉え方を学び、それぞれの特徴を正確に表現する。木炭によるデッサンも試みる。		
	9			
	10	1 絵画表現・構成素描	1 2	手の写実的なデッサンをもとに、構図やその他のモチーフとの組み合わせを工夫することで、自分のイメージの中の世界を表現することができる。
	11	鉛筆による構成デッサン（手と自由モチーフ） 木炭紙大が用紙に、自分のイメージに合わせて手の描写と自由なモチーフを想定して構成しデッサンする。		
	12	これまでに学んできた素描の基本的な考え方を整理し、自分の習熟度に会わせて様々なモチーフに挑戦して描く。	1 2	鉛筆素描の楽しさを知り、どんな題材でも表現できる技術を身につける。
後 期	1	鉛筆と木炭の画材の特性を十分に理解し、それぞれにあったトーンの美しさを作品で表現することができる。木炭紙大の素描が限られた時間内で完成できるようにする。	1 5	3年間の素描の集大成としての知識と自分の技量を発揮し、完成度の高いデッサンができるようになる。またさらに上達するために何が必要かを自分で考え、工夫していく力を身につける。
	2			
	3			
総時間数			7 8	